

2 中学校編

- ◇ 教科にかかわる実践事例…………… 90
- ◇ 領域にかかわる実践事例…………… 91

教科にかかわる実践事例

美里町立小牛田中学校

実践名：「自己を見つめて（自画像）」

教科：美術科（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年9月～11月

◎ 志教育にかかわるねらい（ **かかわる** ・ **もとめる** ・ **はたす** ）

- ・ 互いの表現の工夫やよさに気付き、作品を通して他者理解を深める。
- ・ 現在の自分の姿や気持ちを絵画に表現することを通して自己を見つめ直し、自己の生き方や将来について考える。

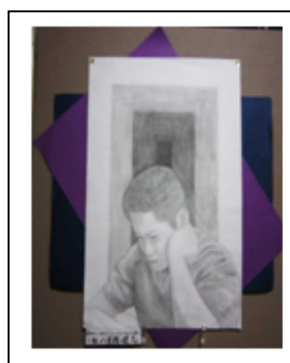
◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 ピカソとレンブラントの自画像を鑑賞する。

[資料1]

2 アイディアスケッチを描く。

- ・ 描きたい表情を決め、これまでの自分の経験や現在の気持ちから、主題を決める。
- ・ 主題から色や形、音を連想する。
- ・ 自分の姿と背景を組み合わせる。
- ・ 画材・技法などを決める。



3 アイディアスケッチをもとに制作する。

- ・ 目や鼻など、よく観察して細部を表現する。
- ・ イメージどおりに表現するため、画材を工夫したり、モダンテクニックを用いたりする。

[資料2]

4 台紙をつくる。

- ・ 作品にあったサイズ・色・形を考える。
- ・ 台紙に描き込んだり、形を変えたりなどして主題を効果的に表すための工夫をする。



5 鑑賞会をする。

- ・ 制作過程を振り返り、自己評価をする。
- ・ 鑑賞のポイントを踏まえて、お互いに作品を鑑賞・批評し合う。
- ・ 完成した作品を見て、作品制作を通して感じたことや思ったことをまとめる。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 主題を決めるときには、これまでの3年間を振り返らせたり、将来の自分の姿を考えさせたりしながら、アイディアスケッチに反映させる。
- ・ 表したいものを思いどおりに表現するための方法を考えさせ、アイディアスケッチの段階で十分に練らせる。
- ・ 鑑賞会では、描画技法を効果的に使っているか、自分の顔や表情の特徴をよくとらえているかなどの着目点を示し、作品の工夫や作者の思いを感じ取れるようにする。

◎ 実践を振り返って

成果

- ・ 資料1は、圧迫感やプレッシャーを感じていたときの姿を描いたものである。資料2は、自身の姿をバラバラにすることによって、心の葛藤を表現している。自分の気持ちを見つめ直すことで、自分自身と向き合い、問題を克服しようとしていた。
- ・ 将来の自分の姿と現在の自分とを重ね合わせ、将来への希望を表現した作品があった。
- ・ 鑑賞会を通して、作品の工夫やよさを認め合ったり、お互いの新しい一面を発見することができた。

課題

- ・ 作品をとおしての他者理解が難しい生徒への支援の方法を工夫することが必要である。
- ・ 主題を決められない生徒への支援の方法を工夫することが必要である。

実践名：「鎌田三之助翁を知ろう」

領域：総合的な学習の時間（1学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年10月18日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- 鹿島台出身で、身近な存在である鎌田三之助翁の人生について知ることにより、様々な困難に直面しながらも、自分の信念を曲げず、自分の成し遂げるべき事業をしっかりと定め、それに向かって粘り強く取り組んだ先人の志に触れさせる。そして、とかく物事がうまくいかないと安易に物事を投げ出してしまいう傾向のある現代の生徒たちが、志をもち、実現へのこだわりを強くもって生きた人生にふれることにより、自己を深く見つめ直し、不安や迷いを乗り越えようとする生き方の大切さやすばらしさに気づき、充実した生活を送ろうとする態度を育む。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 〈つかむ〉 鎌田三之助翁傳を読む。（かかわる）
- 〈深める〉 グループ毎に鎌田三之助翁の人生を壁新聞にまとめる。（もとめる）
- 〈深める〉 鎌田三之助翁のエピソードを分かりやすく寸劇にする。（もとめる）
- 〈まとめる〉 自分をみつめる時間で、将来に夢や希望をもつ。（もとめる）



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

身近な存在ではあるが、大まかな偉業については知っているものの、鎌田三之助翁の人生について多くの生徒がそれほど詳しく知っているわけではない。2013年に出版された口語文での鎌田三之助翁傳は、人柄や考え方に至るまで詳細に記載してあり、生徒にとって比較的読みやすい資料となっている。その本を読みこむことにより、今までより鎌田三之助翁に対して一層身近に感じ、自己を深く見つめ直し、進路選択に伴う不安や迷いを乗り越えようとする生き方の大切さやすばらしさに気づき、自分の考えを深めることができるようにする。

◎ 実践を振り返って

成果 身近な存在の鎌田三之助翁の人生に触れたことで、地域に対する愛情や自分たちの祖先には、すばらしい人がいたのだという自尊意識に近い感情も芽生えたように思う。また、この授業を行ったことで、将来の夢や目標をしっかりと定めて学校生活を送ろうとする生徒が増え、意欲をもって学習や諸活動に取り組もうとする生徒も多くなった。

課題 鎌田三之助翁という偉人はすばらしい人物だという認識をもたせるだけではなく、志をたてて、自分もぜひやってみよう、というところまでは、達成できなかった。

その他 よりよい志教育の授業を行うためには、困難に直面したけれどなぜやり抜くことができたのか、志や郷土を愛する気持ちがどのくらい強かったのか、また、その根底にある人間愛等にも気付かせられるよう進めていきたい。そしてそのためには、より良い資料選びと教師の教材研究が重要になると思われるので、今後もよりよい授業づくりを目指していく。

領域にかかわる実践事例

大崎市立鳴子中学校

実践名：「福祉体験学習」

領域：総合的な学習の時間（1年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年11月7日

◎ 志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）

- ・ お年寄りとのふれ合いを通して、思いやりの心や地域を大切にすることをはぐくむ。
(かかわる)
- ・ 体験活動を通して、地域の一員としての自覚を高め、地域を愛し、貢献しようとする心を育てる。(はたす)

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 福祉体験学習オリエンテーション（1時間）

- ・ 活動のねらいを理解し、活動班の編制を行った。

2 課題の設定と活動の精選・準備（2時間）

- ・ 班ごとに目標を設定し、交流会で自分たちができる活動を行うことについて話し合い、その準備を行った。

3 体験活動

- ・ クラスごとに、鳴子地域の2か所の老人福祉施設に分かれて、施設内の清掃や車椅子をきれいにした。その後、お年寄りとの交流会として、一緒に話をしたり合唱を披露するなどした。



4 事後学習（2時間）

- ・ 施設へのお礼状を作成した。
- ・ 体験活動の自己評価を行い、感想をまとめた。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 活動を通して地域社会との接点を見出し、地域に貢献しようとする心を育て、地域での自己の在り方について考えるきっかけとする。また、活動に携わってくださる地域の方々とかかわることで、異世代との積極的な交流を図る。

◎ 実践を振り返って

成果 生徒たちは自分を見つめ、人とのふれ合いの中で共に協力し合っていることを、感じ取れるようになってきている。また、相手の立場に立って考え、思いやりをもって行動しようとする態度が育ってきた。

課題 今後もこのような地域での体験活動を継続していくことで、地域の一員として、地域を愛し、地域に貢献しようとする態度をはぐくんでいくことが大切であると考え、地域への啓蒙を促すとともに、地域住民の人材活用や地域の特性を生かした活動など、地域と連携を図った志教育を推進していきたい。

領域にかかわる実践事例

大崎市立古川北中学校

実践名：「職場体験から立志式へ」

領域：総合的な学習の時間（2年）

◎ **実施期日（期間）** 平成25年9月10～12日，平成26年1月17日

◎ **志教育にかかわるねらい** **（かかわる）・（もとめる）・はたす**

職場体験・様々な事業所での体験学習を通し，職業に対する理解を広げ，働くことの価値観（勤労観や職業観）を形成し，将来設計に向けての意欲を喚起させる。【もとめる】

・職場で働いている人とのふれあいや仲間とのふれあいを通して，人としての生き方や在り方について学びながら，よりよい人生観を形成させる。【かかわる】

立志式・自分の将来について，社会の中で果たすべき役割とその実現のための努力や取組について考え，よりよい生き方を追求する機会を設定する。【もとめる】

・将来の夢や目標をもたせ，それをそれぞれが互いに誓いの言葉として述べることにより，自己理解や他者理解を深化させる。【かかわる】

◎ **具体的な学習・活動の流れ**

職場体験

- 1 将来の自分の姿，社会との関わりを考える。
- 2 就きたい職業・興味のある職業を選択し，1の職業との関わりを確認する。
- 3 体験希望先の選定及び電話での体験依頼，予備訪問(8月21日(水))の日時を設定する。これに前後して，体験希望先の仕事内容について調査し，予備訪問や体験の準備をする。予備訪問では，履歴書を提出し(最終日に返却)，業務内容や準備物等を確認する。
- 4 体験中や行き帰りの事故防止について考え，注意を図る。
- 5 3日間の体験では，日誌を記入しながら，そのねらいの達成に向けて取り組む。また，体験後は，個人毎に新聞を作成し，その成果を発表する。
- 6 生徒，事業所，保護者のアンケート集計結果も参考に，働くことの再認識，自分の学習や生活での目標の再設定を行う。

立志式

- 1 将来，自分と社会とのかかわりにおいてめざす自分の姿を考える。
- 2 決意の書（毛筆）と誓いの言葉(立志式での発表)を考える。
- 3 記念合唱や礼法，発表「誓いの言葉」を練習する。
- 4 これからの果たすべき責任とめざす姿の実現のための努力について考え，実行する。

◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・自分の行動が職場においてどういう役割を持っているのか，マナーを含めた行動するという観点で見直し，反省や次の行動の実践等で表現させる。
- ・自分の将来の姿を，社会との関わりの中で考え，実現への意欲をもたせながら，現在の自分と比較しながら，何を考え，行動するのかを学習シート等に記入し，思いを表現させる。

◎ **実践を振り返って**

成果 体験学習をすることで，働くことの責任や難しさ，大変さを理解すると同時に，人とのつながりや責任，目標の達成感を味わわせることができた。また，それにより，個々の将来に向けて，希望する姿の追求に意欲をもたせることができた。

課題 個々の適性を把握し，自己実現に向けた目標の再設定が不十分であった。普段の生活に生かすことのできる目標を立て，学習や活動に取り組みさせる工夫をしていきたい。

領域にかかわる実践事例

大崎市立古川南中学校

実践名：「職場体験学習」

領域：総合的な学習の時間（2年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年11月13日・14日

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる）**・**（もとめる）**・**（はたす）**

- ・ 職場の方々やお客さんと『かかわる』ことにより、働くことの喜びや大変さを感じ取らせる。
- ・ 職場体験学習を通して、自らのよりよい生き方や職業観を『もとめる』。
- ・ 職場での役割を『はたす』ことにより、社会の中で果たすべき役割を理解させるとともに、自己有用感を高めさせる。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

・ 事前指導

- | | |
|----------|-----------------------|
| 10月 8日 | 事前アポイントメントの取り方、電話の掛け方 |
| 10月 10日 | 依頼状作成 |
| 10月 15日～ | 職場への電話連絡（放課後）・依頼状送付 |
| 10月 31日 | 職場への質問 |
| 11月 6日 | 訪問時のマナー・トラブル対策 |
| 11月 12日 | 事前最終確認 |

・ 事中

11月13・14日 職場体験学習

・ 事後指導

- | | |
|---------|-------------------------------------|
| 11月15日～ | アンケート調査・感想記入
個人新聞のまとめ
お礼状の作成等 |
|---------|-------------------------------------|



◎ 指導のポイントや手だての工夫

- ・ 自分のもっている夢を実現させるためには、どんなステップを歩んでいけばいいのか、短期的な計画ではなく、長期的な見通しをもって努力していくことが必要であることを意識させたい。

◎ 実践を振り返って

成果

- ・ 様々な人々とのかかわりを通して、将来のことを考える機会となり、進路選択の一助となった。
- ・ 学校生活の中だけでは気付かなかった、自分や友人のよさなどを発見する機会となった。

課題

- ・ 中学生に学ばせたい内容と、体験させていただく内容について、若干の隔たりがあった。目的が同じになるようにもっと入念な事前の打合せが必要であった。

その他

- ・ 今後、事前指導の一環として職業講話（1年）を取り入れたり、地元では体験できない職種について修学旅行（3年）等で触れられる機会を設けたりするなど、3年間を見通した学びの場を広げていきたい。

領域にかかわる実践事例

大崎市立鹿島台中学校

実践名：「職場体験学習」

領域：総合的な学習の時間（2学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年5月～12月

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 自分の夢や適性について、じっくりと向き合わせた上で、職業を選択する。また、自分の職業観に合った訪問先への電話連絡や訪問計画を生徒自身に立てさせ、実践させることで、自主性と実践力を養わせる。活動を通して、地域への関心をもたせるとともに、将来の職業に対する夢と希望につなげさせる。（かかわる・もとめる・はたす）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 自分の適性或職業観について考え、自分と向き合う。
（かかわる）
- 2 職業の種類とその内容について理解し、自分の将来像を考える。（もとめる）
- 3 自分の職業観に合った、体験したい地域の職業を選ぶ。
（もとめる）
- 4 電話のマナーや社会人としての言葉遣い等を指導した上で、体験したい職場に訪問の連絡をする。（かかわる）
- 5 職場体験を通して、集団や社会の一員としての役割や責任を果たす。《体験学習》（かかわる・はたす）
- 6 体験活動を振り返り、班毎に各自の学びをまとめる。
（かかわる）
- 7 体験した訪問先に礼状を書く。（かかわる・はたす）
- 8 体験のまとめを班毎にプレゼン形式で発表する。
《授業参観》（かかわる・もとめる・はたす）



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 職場体験は地元の大崎地区の訪問先に限定し、地域で活躍する人々の様子が目の当たりにできたり、実際に生徒自身が共に活動できたりする訪問先で活動させる。活動後は、お世話になった方々に礼状を書かせ、人と人の関わりの大切さについて実感できるようにする。また、お互いの活動内容や学んだことをプレゼンテーション形式でまとめ、体験学習発表会を行わせる。生徒はもちろんのこと、保護者にも参観していただき、職業に対しての考え方、感じ方などの共有化を図る。

◎ 実践を振り返って

成果 自分の将来像を含めて、自分の興味・関心から体験する職業を選択させ、生徒自らに訪問先にアポイントをとらせたため、ほとんどの生徒が積極的に活動することができた。体験当日の活動では、実際に職場の方と関わり合いながら活動する場面が多かったため、働くことのやりがいや楽しさを感じた生徒が多数いた。活動を通して、これからの自分の生き方や進路選択について真剣に考える生徒が増えた。また、3年間を見通した志教育の一環での活動であるため、前年度の取組を生かした活動ができた。

課題 訪問の受け入れ先の都合で、自分の希望の職種に行けない生徒たちがいた。

その他 生徒の活動について、それぞれの訪問先に事後アンケートをお願いした。実際の活動の様子や取組を評価していただくことで、事後指導に生かすことができた。

実践名：生き方を考えようⅢ「立志式」

領域：総合的な学習の時間（2年）

◎ 実施期日 平成25年11月29日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- 人生の一つの節目を迎えることで、生徒一人ひとりが現在までの姿を振り返り、それぞれの将来の夢や希望を「立志の言葉」として残し、今後の生き方について考える。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 学習の流れ（事前・事後指導を含む）

学習項目	時間
1 立志式の意義を知る	1
2 志を立てる（作文を書く）	2
3 志を立てる（習字を書く）	2
4 発表練習，礼法	2
5 立志式	2
6 まとめ，自己評価	1



立志式・決意発表の様子

2 立志式当日の決意発表

- 事前学習において、将来自分がなりたいと思う姿を習字で表現し、当日はステージ上にそれを提示しながら決意発表を行った。保護者や1・3年生が見守る中、一人ひとりが堂々と将来の夢や生き方について発表を行った。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- 望ましい職業観を身に付け、将来の職業や生き方についてより具体的に考えられるように、総合的な学習の時間において、年間の見通しをもって計画的に指導を行った。5月に「生き方を考えようⅠ」として職場体験学習を行い、事後に“働く上で大切なこと”を作文としてまとめ、体験発表会を行っている。また、この学習後に「生き方を考えようⅡ」として職業調べを行い、職業についての知識と理解を深めた。これらの学習で学んできたことを整理して、自らの将来展望を考え、今後の具体的な目標を立てて立志式で発表を行った。

◎ 実践を振り返って

成果

- 体験学習を生かして、自らの進路や将来について真剣に考えさせることができた。
- 総合的な学習の時間において、ねらいを明確にして指導を行い、望ましい職業観をはぐくみ、社会に貢献しようとする意欲を高めることができた。

課題

- 1年生で行った福祉体験学習、本学年の職場体験学習と立志式、3学年での職場訪問、保育所訪問等を、「かかわる」「もとめる」「はたす」という視点で系統立てて指導することが大切であると考えている。今後さらに、総合的な学習の時間、道徳の時間、学級活動等で総合単元的に学習計画を立て、将来に向けて夢や希望をもって学ぼうとする意欲を高めていきたい。

領域にかかわる実践事例

大崎市立鹿島台中学校

実践名：「郷土への思い」（郷土愛・先人への尊敬）

領域：道徳（2学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年10月10日

◎ 志教育にかかわるねらい **（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 地域社会の一員としての自覚をもって郷土を愛するために、かけがえのないふるさとである鹿島台の優れている面や自慢できるところの発見に努める（かかわる）。その上で、社会に尽くした先人や高齢者に尊敬と感謝の念を深め、郷土の発展に努めるために、鎌田三之助翁にふれ、郷土や先人について見つめ直す機会を与えることにより、地域社会が多くの人たちの協力や尽力の上に成り立つことに気付かせる（はたす）。また、先人への尊敬や感謝の気持ちを持ち、地域社会のために何ができるかを考えることで郷土を愛する心を醸成していく（はたす）。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 1 〈つかむ〉 鹿島台の優れている面や自慢できるところをあげる。（かかわる）
- 2 〈深める〉 鎌田三之助〈みやぎの先人集より〉の話を読み、郷土や先人について見つめ直す。（かかわる）
- 3 〈深める〉 事前にとったアンケートの結果を提示し、話し合うことにより、鹿島台の良さに気付く。（かかわる・はたす）
- 4 〈まとめる〉 鹿島台の良さに気付く、先人への尊敬や感謝の気持ちを持ち、地域社会のために何ができるかを考える。（はたす）

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 先人の心情や志に触れさせる発問や資料を工夫することで、より身近なこととして郷土への思いや関心を高めることができ、自らの考えを深めていくことができる。また、終末で、今自分ができていることを考えさせる場面をつくることで、先人への尊敬や郷土を愛する心と感謝の気持ちを持ち、自分の夢や地域社会への貢献について広げることができる。

◎ 実践を振り返って

成果 郷土の先人の話を読み、その心情や志に触れさせることで、より身近なこととして郷土への思いや関心を高めることができた。さらに、終末の自分を振り返る場面では、自分が住む地域社会のために何ができるかを深く考えることができた。

また、この授業を行ったことで、先人への尊敬の念や郷土に対する愛着が強まった。そのため、これまで参加してきた鹿島台地域で行われる行事に来年は必ず参加したいという感想や、大人になったら、地域のために活躍できる人になりたいという感想が多くあった。

課題 みやぎの先人集を使った授業をするためには、オリジナルの指導案を作成しなければならないため、準備にはかなりの時間を要した。

その他 より良い道徳の授業を行うために、今後も、吟味した資料の選定、身近なゲストティーチャーの授業への参加、体験活動による価値の気付きなどを大事にしていきたい。

領域にかかわる実践事例

大崎市立鹿島台中学校

実践名：「ものづくり体験」

領域：総合的な学習の時間（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年10月29日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる・もとめる・はたす**）

- ・ 地域の協力者や高齢者との交流の中で地域のために支え、活動していく意義を理解させたり、自分の生き方について考えさせたりすることで豊かな人間性を育ませる。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

- 地域に伝わる伝統活動や文化的な活動を地域の方々との交流を深めながら体験する。
 - * 地域の方々を講師に招き、わらじづくりや陶芸づくり、勾玉づくりの3つのコースから1コースを選択し、ものづくり体験を行う。（かかわる）
 - * 自分が地域の一員として何ができるのか、「みやぎの先人集」を活用した道徳との関連を図り、自己の生き方を考える。（もとめる）

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

(1) 指導のポイント

- ・ 地域の高齢者や関連機関の方々との交流の中で、地域の方々の子どもたちへの思いに触れ、個と社会との関係について再認識し、社会の一員としての生き方を考えさせる。



(2) 指導の工夫

① 事前指導

- ・ 活動内容を伝えるとともに、それを支えてくれる公民館や大崎市文化財課の方々の協力や鹿島台わらじ会のボランティアがあることを伝える。

② 当日の活動

- ・ 会場毎に講師の先生からご挨拶をいただくと同時に、協力への感謝の念を伝える会を設ける。
- ・ コース毎に小グループを編成し、交流しやすい環境をつくる。

③ 事後指導

- ・ 講師の先生方へお礼状を作成する。
- ・ 道徳との関連を図る。

◎ 実践を振り返って

成果 地域の方々との交流を深めながら、作品ができた充実感をもてた生徒が多かった。自分たちのために、地域の方々がボランティアで協力していただいたということを知り、感謝の念を深め、その後のお礼状作成にも意欲的に取り組んでいた。

課題 今年度は活動内容を例年と若干変更し、日程等、地域の協力がスムーズに得られることができた。しかし例年、人材確保が難しい。また、予算不足の課題もあり、事前の打合せが重要である。

その他 体験活動だけに止まらず、地域で活躍するの方々との交流活動というところから、**「みやぎの先人集」**を活用した道徳との関連を図りながら進めた。

領域にかかわる実践事例

大崎市立岩出山中学校

実践名：「修学旅行における岩出山PR活動」

領域：総合的な学習の時間（3学年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年4月17日（3月から準備を始める）

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・**はたす**）

- ・PR活動を通して、岩出山のよさを他にPRし、地域芸能などを表現することのすばらしさを体感し、自他を尊重する態度を育てる。
- ・郷土や郷土の伝統文化のすばらしさを再確認するとともに、郷土を大切にし、よりよい地域社会を創り上げていこうとする態度を育てる。

◎ 具体的な学習・活動の流れ

【場所】 東京柴又帝釈天題経寺にて

【PR活動実施内容】

- ①すずめ踊りの披露
- ②地域物産の配布
（かりんとう、生徒自作のこけし、観光パンフレット）
- ③岩出山中学校応援エールの披露

【総合的な学習の時間における準備】

- ・岩出山を紹介するポスター・スライドショーづくり
- ・例年政宗公まつりで披露しているすずめ踊りを工夫して披露するための練習を行う。
- ・地域の商店等と交渉して物産等の提供を依頼する。
- ・地域の方々の協力を得ながら、民芸品の製作を行う。
- ・帝釈天題経寺や東京有備会との交渉と協力依頼を行う。

◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・事前の準備で地域の方々とのかかわりを通して、岩出山とその文化のすばらしさを体感させると共に、PR活動を通して自分たちが発信することで郷土のすばらしさが広まることを感得させる。



◎ 実践を振り返って

成果

- ・東京という舞台上で、自分たちの郷土をPRすることで、生徒の発表態度やPR活動を真剣に行い、集まった方々にもとても好評であった。
- ・自分たちが暮らす地域について、興味・関心をもってもらえたことへの喜びを感じられた。
- ・たくさんの人とかかわれたことによって人前で堂々と発表する姿勢が培われた。

課題

- ・今後も継続していくためには、PR活動の内容にも変化をもたせなければならないと感じる。またその後の学校生活に生かせるための何らかの手だてが必要である。
- ・活動は手段であって、目的ではないことを生徒に理解させ、活動の事前と事後で自分にとってどのような変化があったのかを考えさせる指導の工夫が必要である。

その他

- ・岩出山という地域のよさとは何か、さらに地域の方々の協力を得ながら、よりよいPR活動が行えるよう工夫させていきたい。また、他領域とのかかわりを明確にするなど成果と課題を年間計画に生かしたい。

領域にかかわる実践事例

美里町立南郷中学校

実践名：老人会との交流会（グランドゴルフ）

領域：総合的な学習の時間（3年）

◎ 実施期日（期間） 平成25年9月18日

◎ 志教育にかかわるねらい（**かかわる**・**もとめる**・はたす）

- ・ 老人会との交流により、地域の方々と信頼し合える関係を育てる。（かかわる）
- ・ スポーツによる交流を通して、お年寄りの方々の思いや願いを知り、地域の一員として地域の活動に積極的に取り組もうとする意欲をもたせる。（もとめる）

◎ 具体的な学習・活動の流れ

1 事前指導（1時間）

- ・ 交流会の意義、活動の進め方のオリエンテーション
- ・ 交流会での活動内容の検討等

2 交流会（2時間）

- (1) 開会行事
- (2) 老人会参加者の紹介
- (3) グランドゴルフ大会
- (4) 閉会行事

3 事後指導（1時間）

- ・ 活動の振り返り、お礼状等の作成



◎ 指導のポイントや手立ての工夫

- ・ 事前に老人会代表の方と打合せを行い、グランドゴルフ大会の運営のしかたや注意事項などを確認し、相手の気持ちを思いやりながら活動できるように指導する。
- ・ どのような姿勢で活動すれば老人会の方々に喜んでもらえるか、生徒を中心に話し合わせ、必要に応じて教師が助言する。また、開会・閉会行事は、学年委員会を中心に生徒主体で行う。
- ・ 交流会で感じたことや学んだことについて生徒の振り返りの場面を設定する。（学校でとりまとめて、お礼状と併せてお届けする。）
- ・ 老人会にアンケートを行い、生徒の活動や交流会のもち方等について、ご意見等をいただき、次年度の活動の改善に役立てる。

◎ 実践を振り返って

成果： 南郷地区においても、生徒はお年寄りの方と接する機会が少なくなってきたことから、この交流会はとても貴重な経験であった。老人会の方々から丁寧にグランドゴルフの手ほどきを受け、共に楽しく活動することができた。生徒の感想から、今回の交流を通して、今後はこれまで以上に地域に貢献していこうとする意欲の高まりが見られた。

課題： 今回の交流会は好天に恵まれ、グランドゴルフを実施することができたが、天候によっては体育館で実施する活動の計画も立てておく必要がある。

領域にかかわる実践事例

大崎市立鹿島台中学校

実践名：「地域合同防災避難訓練」

領域：学級活動（全学年）

◎ **実施期日（期間）** 平成25年11月6日

◎ **志教育にかかわるねらい（かかわる・もとめる・はたす）**

- ・ 学校と地域関係機関が一体となった避難訓練・防災訓練を行うことで、地域全体の防災に対する意識を高めると共に、他者や社会の安全に貢献する心を育むことをねらいとする。（かかわる・もとめる・はたす）

◎ **具体的な学習・活動の流れ**

【第一部 避難訓練】

- 1 東日本大震災と同程度の地震、火災を想定した避難訓練を行う。
- 2 保護者が生徒の引き渡しに来た設定で訓練を行う。地域住民（行政区長）には避難してきた設定でその後の対応を説明する。
- 3 各講師（古川消防署志田分署員、鹿島台消防団員等）から講評を聞く。（かかわる）

【第二部 防災訓練】

- 4 各学年毎に分かれ、保護者を交えた防災訓練を行う。（かかわる・はたす）
 - ① 1学年 水消火器による初期消火訓練
煙中体験
 - ② 2学年 身近なものを使用した止血法
傷病者搬送訓練
 - ③ 3学年 洪水シミュレーション図上訓練
- 5 各講師（古川消防署志田分署員、鹿島台消防団員、社会福祉協議会）から講評を聞く。（かかわる）
- 6 教室に戻り、反省や感想を記入する。（もとめる）



◎ **指導のポイントや手立ての工夫**

- ・ 訓練を避難と防災に分け、第一部を地震及び火災に対する避難訓練を行い、併せて引き渡しの実演としての避難訓練、第二部を各学年ごとに防災教育にかかる防災訓練として行った。関係機関や保護者、地域の協力を得て実施した。
- ・ 防災訓練は各学年毎にテーマを設定して実施し、学年が上がるにつれて、身近な人や地域のために貢献するにはどのような技術を身に付けておくと良いのか、あるいは、災害時にどのような考えをもっているべきなのか考えさせた。
また、避難訓練後に、保護者の代表や行政区長に感想を話してもらうことで、地域の方々が中学生に求めていることを理解させるようにした。

◎ **実践を振り返って**

成果 消防署の方々以外にも、鹿島台消防団や大崎市社会福祉協議会、保護者、行政区長の参加があったことで、生徒は一層真剣に取り組んでいた。

関係機関の方からの指導を受けたり、保護者や行政区長の話の聞いたりすることで、改めて地域の方々から支えられ、気にかけて生活していることを実感していた。

課題 地域と連携した、さらに効果的な訓練について検討する必要がある。

その他 学校周辺の地域住民の協力や行政区毎の自主防災訓練への生徒の参加など活動の機会を増やしていくことが必要である。